

案件概要書

2013年6月25日

国際協力機構南アジア部南アジア第四課

1. 案件名（国名）

国名： バングラデシュ人民共和国

案件名： 西部バングラデシュ橋梁改修事業 (Western Bangladesh Bridges Improvement Project)

2. 事業の背景と必要性**(1) 当該国における道路・橋梁セクターの開発実績（現状）と課題**

バングラデシュでは、年率6%前後のGDP成長率を維持する近年の堅調な経済発展に伴い、1975年から2005年までの過去30年間で貨物取扱量が約8倍にまで拡大し、近年では6~7%のペースで貨物量・旅客数ともに増加を続けている。バングラデシュ政府はこれまで積極的に道路網の整備を進め、内陸水運や鉄道を抑えて、道路利用が国内の物流の8割を支えるまでに拡大した（2005年）。しかしながら、バングラデシュの国内道路において運輸省道路局国道部（以下、RHD）が所管する約4,500橋梁の多くは、老朽化が進んだまま改修・架け替えが追い付かず、このうち、約1,500橋は構造上に大きな損傷を有しているため安全な通行が出来ないとされている。また、約1,000橋は、本来、一時的な仮設橋としてのみ用いられる簡易鋼橋（軍事用プレハブ橋である「ベイリー橋」等）であり、そもそも道路橋梁としての性能と安全性が十分確保されていないだけでなく、多くが既に劣化・損傷し、場合によっては崩落する等の危険な状況に陥っている。

(2) 当該国における道路・橋梁セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

バングラデシュ政府は、「第6次五か年計画」（2011/12~2015/16年度）において、バングラデシュの道路セクターでは、効率・近代的な道路輸送システムが、同計画及び当国の中期目標であるVision 2021を達成するために重要な役割を果たすと明記され、合計約1万m分の既存橋の架け替えが主要目標の一つに掲げられている。「国土交通政策」（2004年）では、全ての中小橋梁について安全策を施すことを方針の一つとしており、また、同政策を基に策定された「道路マスタープラン」（2009年）では、すべての簡易鋼橋を永久構造物に架け替えることを目標の一つにしており、本事業はこれら方針・目標に含まれる事業である。そのため、本事業の早期実施の必要性は高い。

(3) 当該国における道路・橋梁セクターに対する我が国の援助方針

対バングラデシュ JICA 国別分析ペーパー（2012年2月）において「全国運輸交通ネットワーク整備」が重点課題であると分析しており、対バングラデシュ国別援助方針（2012年6月）における重点分野「中所得国化に向けた、全国民が受益可能な経済成長の加速化」の中で、運輸・交通インフラを整備し、人とモノの効率的な移動の促進、地域間格差の解消に貢献することを掲げており、本事業はこれら分析、方針

に合致する。

(4) 他の援助機関の対応

バングラデシュの道路・橋梁を含む運輸セクターは JICA、世界銀行（世銀）、アジア開発銀行（ADB）が主要ドナーである。世銀は、1990 年代から 2000 年代初頭にかけて RHD に対して道路修復・維持管理事業を実施。ADB は、運輸セクター改革、ダッカ・チッタゴン間高速道路事業（F/S）等を支援している。ジャムナ多目的橋建設事業は、ADB、世銀、及び JICA 等の協調融資で行われた。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、バングラデシュ西部地域において橋梁の架け替え及び補修を行うことにより、地方橋梁の安全性を確保し、交通ネットワークの改善を通じて輸送の効率化を図り、もって地域経済の活性化と地域間格差是正に寄与するもの。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

バングラデシュ国西部（ポリシャル県、ゴパルゴンジ県、クルナ県、ラジャヒ県、ランプール県）

(3) 事業概要

- 1) 橋梁の架け替え、補修（100 橋前後の規模を想定）
- 2) アプローチ道路の整備
- 3) コンサルティング・サービス（詳細設計・入札補助・施工管理等）

(4) 事業実施体制

借入人：バングラデシュ人民共和国政府

事業実施機関：運輸省道路局国道部

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類： B
- ② カテゴリ分類の根拠： 本事業は、「国際協力機構 環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路・鉄道・橋梁セクターのうち大規模なものには該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び地域に該当しないため。

2) 貧困削減促進等：（調査で確認）

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携： 同国東部地域で実施中の「東部バングラデシュ橋梁改修事業」（円借款、2009 年～現在）と連携し、同事業で得られた RHD 所管橋梁全体の詳細情報を本事業においても活用する。

(7) その他特記事項： 日本が優位性を有する「耐候性鋼板」の適用可能性を協力準備調査において検証し、同技術の活用方法について検討する。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

インドネシア国のジャワ北幹線橋梁修復事業の事後評価等から、実施機関の十分

な維持管理能力を確保するために、長期的かつ持続的な専門職員・現場担当者の育成が必要であると指摘されている。また、広域での複数サイト型修復事業の場合、各地に分散するサブ・プロジェクトに密着した実施管理の重要性が指摘されている。

(2) 本事業への教訓

本事業でも、橋梁の維持管理に関する専門能力を維持させる必要があり、また、広域かつ複数サイトにて橋梁の改修を行うことから、上記教訓を踏まえ、維持管理の所轄機関である実施機関職員の能力向上、及び広域分散型サブ・プロジェクト管理のあり方をコンサルティング・サービスにて支援することの必要性等を調査にて確認する。

以上

〔別添資料〕 地図

西部バングラデシュ橋梁改修事業地図



崩落するベイリー橋（写真）